

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152  
メール info@takaoka-hongwanji.jp

## ◇教務所長歓送迎会

去る五月十三日、レストラ  
ンDUOにて高岡教区教務  
所長の歓送迎会が行われた。  
まず初めに津山教区会議  
長よりご挨拶いただいた。

森尾淳章佐賀教区教務所長  
並びに泉井敬文高岡教区教  
務所長・教区役職者・各団体  
長の方々を招き、総勢七十三  
名の参加があつた。



## ★災害対策支援活動報告

五月十五日、輪島市門前町諸岡地区の道下第二集会所での炊き出しに同行いたしました。この日は、毎回お世話をしてくださる仏教婦人会・壮年会・青年会の方だけでなく、高岡龍谷高校の校長先生や生徒会の方々も参加しておられ、回数を重ねるごとに活動の輪が少しずつ広がっていることを実感し、喜びと心強さを感じております。

さて、昨年より何度か輪島に赴いて感じることは、「私たちのことを知ってほしい」という現地の方々への思いです。先行きの見えないままの被災者の方々は、私がこの原稿を書いている今も尚、長く連なる仮設住宅で過ごしておられます。その現状や思いを少しでも多くの方に見て、聞いていただきたいと思ひます。また教区報などで炊き出しの案内があると思ひますので、

都合のつく方はぜひ同行し、現地を訪ねてみてくだ  
さい。

一方で、どうしても都合がつかない方や、そこま  
ではできない方もおられると思いますが、私はそれ  
で良いと思います。一番良くないことは「私には何  
もできないから考えることをやめてしまう」こと  
です。具体的な活動は何もできなくても、被災地の情  
報に触れ、ただ心配し、ただ心を痛めることもまた  
大事なことです。

私自身も自分の都合を優先してばかりで大層な  
ことはできませんが、皆さんと協力しながら今後も  
支援活動を続けていきたいと思ひます。

射水組光照寺 公文名智

## ★氷見東組親鸞聖人御誕生八五〇年・

## 立教開宗八〇〇年慶讃法要

六月一日、午後一時三〇分より、氷見市阿尾徳生  
寺を会場に「組における法要行事」『親鸞聖人御誕  
生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要』並びに帰  
敬式が実施された。

当初この法要は、二〇二三年に修行された京都西  
本願寺における慶讃法要に引き続き、二〇二四年六  
月に実施の予定であったが、「能登半島地震」によ  
り行事寺院や門信徒の被害が大きく、やむなく延期  
をし、このたび改めて執り行うこととなったもので  
ある。

また、法要の協賛行事として行った「帰敬式」は、  
八十九名の受式となり、本願寺式務部侍真 近松照

俊さんを導師（御手代）として厳かに執り行われた。氷見東組における組としての帰敬式は二〇二三年六月に一度行っており、今回が二回目となる。今回はコロナ禍の中で「灘浦相統講」の法要記念事業としての実施であった。氷見東組灘浦相統講という講は、本山助成講といわれるような、真宗のご法義や本願寺教団の維持に大きな力となったとされる講から、氷見東組（灘浦地区）の寺院が中心となり独立して生まれたもので、注目すべき点は、毎年担当寺院を氷見東組十四ヶ寺持ち回りで実施していること、本山護持の経済的助成は行わず、法義相統のみを目的とし、その活動が現在まで至っていることである。前回の帰敬式実施の目的は、これまであまりお寺にご縁のなかった門信徒の方々に「灘浦相統講」という宗祖親鸞聖人のみ教えを聴聞し、お念仏の信心を現代から未来へ伝えていくための大切な法座があるということをお伝えする機縁となればとの思いで行ったものであり、このたびの帰敬式実施は、大きな震災によって被災された門信徒の皆様がこの帰敬式を受式され、授かった法名が、嬉しいとき、そして苦しいときにも、仏さまのみ教えを依りどころとする人生の道しるべとなっていたかどうかという願いをこめて執り行うこととした。

本来、帰敬式は本願寺において阿弥陀様・親鸞聖人御真影様の前行られるものである。今後、東組において「組における帰敬



式」を続けていくかどうかという点については、ただ単に人が多く集まるから行うということではなく、何のために「組主催」の帰敬式を実施するのかという目的をあきらかにし、さらには、一過性の儀式ではなく、帰敬式を受式された門信徒の方々にさらなるご縁を深めていただくための手立てを講じるためにはどうすれば良いか、など様々な面からの協議が必要であると同時に、その協議は、実施の是非可否から、その運営内容にいたるまで、組内のすべての寺院住職が集まって行うものでなければならぬものであると思われる。「ごく一部」の人間が検討し企画したことを「ごく一部」のメンバーで遂行していく。これは、ある面では楽で進めやすい方向性をもった進め方ではあるが、意見が違えば、まったく正反対であるという人たちにも声掛けをし、協議の中に加わってもらったことによって「どのような内容であれば合意できるのか」ということを吟味する過程の中から「正当性」や「明確性」「平等性」というものが生まれてくるのではないかと思う。これまで二回実施した『組』における「帰敬式」にむけての協議の中で生まれてきた率直な感想である。

氷見東組妙願寺 清水朗

#### ◆訂正のお知らせとお詫び

先月号にて記載しておりました「ラジオ放送」の講師名に誤りがありました。正しくは「6月22日（日）杉谷淳志」です。訂正してお詫び申し上げます。

#### ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

##### 高岡教区委員会研修会開催

去る五月一五日（水）西本願寺高岡会館において、教区委員会委員研修会が開催されました。

研修テーマは、「人口減少化社会での宗教活動・寺院活動」と題

して、過疎高齢化が進行する中、能登半島地震で被災し門信徒も離散していく中でも、寺院活動を続けようとする方々の事例を参考にこれからの寺院活動の在り方と可能性について探っていくことをねらいに、パネリストとして長田浩昭さん（大谷派法伝寺住職）と細木英昭さん（石川県同和教育研究協議会副会長）をお迎えしてコーディネーターの林史樹さん（伏木組要願寺住職、高岡教区委員会副委員長）の進行の下でパネルディスカッションが進められました。

長田浩昭さんからは、能登半島地震はこれまで経験したことのない甚大な震災であり、昨年の九月の豪雨被害も重なって生活に必要な電気・水道や倒壊した家屋の公費解体作業などの復旧、復興が異常なまでに遅いことなどお話しされました。その上で、支援活動として真宗大谷派奥能登ボランティアセンターを開設し、炊き出しや支援物資の搬送、断水で入浴困難者となった方のために、二トトラックを改造したトラック風呂を開設して健常者以外の方や高齢者にも利用できるお風呂を提供する活動を始めたのは、自らも被災し自坊が全壊・半壊した地元の僧侶有志だったということをお話いただきました。また、発災当時は厳冬でもあり、温かいものを中心とした炊出しは欠かせないものでしたが、炊き出しに行っても、感染症対策として事務担当者に必要な個数を作って手渡すだけで、被災した方と全くふれあうことも対話することのできない状態が続いたそうです。そんな中で被災した方々からの要望として「居酒屋」が身近になれば、という声が上がっていたので、「出張居酒屋」の活動を開始。仮設住宅で「出張居酒屋」で被災した方々と触れ合う中で「人と会って不安や不満を聞いて欲しい」「わずかな時間でも現実から離れてバカ話をしたい」などの声が寄せられ、お酒が飲みたいからというよりも、そんな空間を必要とされていたことに気付かされ、今では「出張居酒屋」を開設して人と人を繋ぐ炊き出しスタイルは、被災した方々に受け入れられ、血の通ったコミュニケーションの場として欠かせない活動となつていくそうです。その上で、現在寺院が抱えている課題の門信徒のお寺離れを挙げられ、門信徒さんと向き合うことのない、対話が無い、関係性が希薄な状態では阿弥陀様の願いである「一人も取り残さない」とする仏教の精神が伝わらないのでは

ないか、「出張居酒屋」的な交流やコミュニケーションを図る取り組みもお寺の大切な役割ではないのかと指摘をされました。

細木英昭さんからは、お仏壇やお墓、そして家屋も被災する中で生活に必要なインフラの復旧が進まない現状のいら立ちや不安についてお話しされました。仕事の関係もあり、二拠点生活を余儀なくされ、大変なご苦労をされていることが伺えました。その中で気付かれたことは、誰もが将来の不安を抱えながら生活をされる中で、ご近所同士のお付き合いや助け合いが、今日を生きるエネルギーとなつていること。また、行政の役場と被災者との仮設住宅への入所手続きにおけるシステム上の問題点や、孤立されていく方への自己責任論的な発言などで生きづらさを感じている人が、今後復旧、復興の遅れによって増加するのではと危惧されてきました。細木さんも一人の門徒として、様々な社会の問題の中で生きる現実を認識して僧侶さんほどのように地域の門信徒方と向き合うべきなのか、その方法を求めて行くべきではないかと課題を投げかけられました。

特に印象的だったのは、長田さんが、大谷派の能登教区の全半壊した寺院に対して、宗派から相当額の助成金が出ることになり、それまで「人もいなくなるし、もう廃寺にしてしまおうか」と言っていた住職たちが、助成金を頼りに以前と同様の伽藍を建てようとしていることを挙げられ、人がいなくなっていくのにそんな立派な伽藍が必要なのだろうか？寺院として本来に必要な機能、果たす役割とは関係ないように思う、という趣旨のことを述べられたことでした。また、細木さんからは、「損壊した神社の再建について近所の人と話をしているが、正直なところ、本殿はともかく鳥居や狛犬が本当に必要なのか？という疑問があります」と述べられたことは、人口が減少していく中でこれからの寺院や宗教活動のあり方を考える上で重要だと感じました。

今回のテーマは、寺院運営に関わる方にとつて、深刻で「待つた無し」で取り組む重要課題です。私たちは、自身の課題として受けとめ、混迷する現代社会の中で浄土真宗の教えが社会の中でどのような役割を果たせるのか？これからの寺院活動の在り方と可能性について共に考えて参りましょう。

【同朋企画専門委員 島高志】

◇これからの日程（6/14～7/31）◇

6月	教区・財団行事	教化団体・組行事	
14	常例法座	若女総会	
15		災害支援活動	
16		第3B保育連盟打合せ(Web)	
17		ビハーラ総会	
18		富山真宗学会	
19		減免審査会・常備会	同朋委員研修会
20			第1回まことの保育研修会
21			コーラス(午前)
23		聖典セミナー	コーラス(午前)
24			
25		財団評議員会	念仏者九条の会
26			中部・北陸仏婦大会(福井)
27			災害支援活動
28			
30		常任委員会	
7月			
1		宗務懇話会(Web)	講社打合せ(Web)
2			
3			門徒総代常任幹事会
4	仏婦真宗入門講座		
6	水波組仏婦夏季講習		
7	連区布教団連絡協議会(Web)		
8	コーラス(午後)		
9	教区会		同朋の会
10			平和学習会
14	常例法座		
15	聖典セミナー		
18	会館永代経	コーラス(午前)	
22		寺女研修会	
25		関野組(～27日)	
26			
29	得度講習会		
30	得度考査		

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送(KNB)・738kHz.

□第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00～6:10

●7月13日(日)

未 定

(富山教区)

●7月27日(日)

未 定

(富山教区)

※高岡教区及び富山教区が主催し、北日本放送

(KNB)にて毎週日曜日午前6時から放送しております「西本願寺の時間」は、放送を継続しております。

また、西本願寺では、動画配信サイトを設置し話等を配信しております。ご視聴ください。

<https://broadcast.hongwanji.or.jp/>



【西本願寺高岡会館7月の常例法座】

ご講師： 義本弘導師

(大阪教区交野組浄光寺)

ご講題：『浄土真宗の救いのよろこび』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。

☆お知らせ☆

平素より法輪せんべいをご愛顧いただきましてまことにありがとうございます。

この度、法輪せんべい専用電話サービスが終了いたしました。今後は下記公式LINE若しくは電話にてご注文ください。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

お申込み先

高岡教務所内(寺族青年会担当)

Tel.(090)3299-8784(代表)

メール hourin18@gmail.com

